

ホームレスの人権を考えよう

1 対象
中学生

2 ねらい

屋外生活者（ホームレス）の背景や生活、思いについて理解し、屋外生活者の人権を考えることをとおして、自分自身の人権感覚・人権意識を高める。

3 準備するもの

- ワークシート
- 資料
- 資料（教師用）

4 解説

屋外生活に至る経緯は様々です。屋外生活者の中には、数年前までは会社で働いていたのに、リストラなどにあつて突然職を失ってしまった人や、定職に就き定住したくても、高齢や病気などのために、希望どおりにならない人もいます。一度屋外生活になると住所が特定できなくなるため、再就職が困難になり、収入を得ることが難しくなります。また、社会の屋外生活者に対する偏見や差別があるなど、自身の努力では解決できない問題が、元の生活に戻りたい人の希望を阻む大きな要因となっています。

このワークでは、生徒自身が屋外生活者の置かれている状況を正しく理解し、偏見や差別の現実や、屋外生活者の人権について考えを深めます。そして、生徒自身が自分の中にある思いを問い直し、偏見や差別のない、ともに生きる社会をつくるためにできることを考えます。

5 教科などとのつながり

社会、特別の教科 道徳 など

6 進め方（展開例） 50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アクティビティ1（8分）</p> <p>「屋外生活者についてどのようなことを知っていますか」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個人でワークシートの1に書く。 ② グループで意見交換し、共有する。 ③ 全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを説明する。 ・P4〔学習の約束〕を伝える。 ・屋外生活者についてほとんど知らないという記述があってもよいことを伝える。 ・4人程度のグループをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
	<p>・生徒自身が自分の中にある屋外生活者に対するとらえ方を確認しながら、次のアクティビティにつなげる。</p>		

展開 30分	<p>◆アクティビティ2 (15分) 「屋外生活者の背景や生活を知ろう」</p> <p>①屋外生活者に関するデータを読み取り、ワークシートの2に書く。</p> <p>②グループで伝え合う。 ③全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料の補足説明をする。 「今のままでよい(路上生活)」が41%ある。純粋な希望であることも考えられるが、諦めの心境なども考えられるため、生徒に理由を考えさせるとよい。 「カフカの階段」を全体に提示し、元の生活に戻るために屋外生活者が独力で「壁」を乗り越えるには困難があることを知らせる。 「椅子取りゲーム」を全体に提示し、貧困は社会的な構造の中で起こることをとらえさせる。 経済的な困窮が社会的な孤立につながっていることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料 ワークシート 資料(教師用)
	<p>・屋外生活は誰にでも起こりうることであり、経済的な困窮が社会的な孤立につながっていることに気づく。</p>		
	<p>◆アクティビティ3 (15分) 「屋外生活者の人権について考える」</p> <p>①「屋外生活者襲撃事件」を聞き、なぜ、このようなことが起きたのかを個人で考え、ワークシートの3に書く。</p> <p>②グループで伝え合う。 ③全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師が読み聞かせる。 「屋外生活者襲撃事件」は、犯罪であるとともに、屋外生活者の人権を踏みにじる大きな人権侵害であることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料(教師用) ワークシート
まとめ 10分	<p>◆まとめ (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> どうしたら屋外生活者の人権が守られるかの視点をふまえ、振り返りをワークシートの4に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「今のままでよい」と考えている人もいることを念頭に、屋外生活者の人権が守られるようになるにはどのようなことが必要か考えるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート
<p>・偏見や差別を許さない社会の実現に向けて、自分事として関わっていこうとすることの大切さを考える。</p> <p>・個々の屋外生活者の思いに寄り添うことが大切である。</p> <p>・「人と人」として向き合い、屋外生活者の人権が守られているかの視点で考え、自分を含めた一人ひとりが「ともに生きる社会」の一員であることに気づく。</p>			

<参考資料など>

- ・「子どもに『ホームレス』をどう伝えるか いじめ・襲撃をなくすために」生田武志、北村年子著 発行：一般社団法人ホームレス問題の授業づくり全国ネット 発売：太郎次郎社工ディタス(平成25年7月)
- ・「貧困は自己責任か」高沢幸男著 彩流社(令和5年4月)
- ・「人権学習のための参加体験型学習プログラム集 第3集」神奈川県教育委員会(令和3年3月)

ホームレスの人権を考えよう

()年()組()番 名前_____

- 1 おくがいせいかつしゃ 屋外生活者について知しっていることかを書きましょう。

- 2 おくがいせいかつしゃ 屋外生活者の背景はいけいや生活せいかつをデータから読み取りよと、書かきましょう。

- 3 「おくがいせいかつしゃしゅうげきじけん 屋外生活者襲撃事件」について、なぜ、このようなことおが起きたのかかんがを考え、書かきましょう。

- 4 がくしゅう 学習の振り返りふ (どうしたら屋外生活者おくがいせいかつしゃの人権じんけんが守まもられるか、など)

【屋外生活者数の経年変化】

ねんど 年度	にんずう 人数	ぜんねんひ 前年比
れいわ ねん 令和3年	3,824人	-4.2%
れいわ ねん 令和4年	3,448人	-9.8%
れいわ ねん 令和5年	3,065人	-11.1%
れいわ ねん 令和6年	2,820人	-8.0%
れいわ ねん 令和7年	2,591人	-8.1%

【屋外生活をしている期間】

ろじょうせいかつ きかん 路上生活の期間	わりあい 割合
ねんみまん 1年未満	20.3%
ねんいじょう ねんみまん 1年以上5年未満	20.6%
ねんいじょう ねんみまん 5年以上10年未満	19.1%
ねんいじょう 10年以上	40.0%

【屋外生活をしている年齢構成】

ねんれい 年齢	わりあい 割合
さいい か 19歳以下	0.1%
さいい さいい 20歳～29歳	0.9%
さいい さいい 30歳～39歳	1.8%
さいい さいい 40歳～49歳	7.5%
さいい さいい 50歳～59歳	19.6%
さいいじょう 60歳以上	70.0%

【屋外生活に至った理由】

ろじょうせいかつ いた りゆう 路上生活に至った主な理由（複数回答可）	わりあい 割合
しごと へ 仕事が減った	24.5%
とうざん しつぎょう 倒産や失業	22.9%
にんげんかんけい 人間関係がうまくいかなくて仕事を辞めた	18.9%
びょうき こうれい しごと 病気・ケガや高齢で仕事ができなくなった	14.3%
とう やちん ばら アパート等の家賃が払えなくなった	13.2%
かぞく りべつ しべつ 家族との離別・死別	8.5%

【屋外生活に至る直前の雇用形態】

ろじょうせいかつちよくぜん 路上生活直前に就いていた 仕事での立場	わりあい 割合
けいえいしゃ かいしゃやくいん 経営者・会社役員	2.2%
じえい かぞくじゆうぎょうしゃ 自営・家族従業者	4.8%
じょうきんしよくいん じゆうぎょういん 常勤職員・従業員 (正社員)	45.8%
りんじ 臨時・パート・アルバイト	23.2%
ひ やと 日雇い	20.7%
た その他	3.3%

【屋外生活者の今後の展望】

こんご せいかつ じょうい 今後の生活について（上位5つ）	わりあい 割合
いま ろじょうせいかつ 今のままでいい（路上生活）	40.9%
す しゅうしょく じかつ アパートに住み、就職して自活したい	17.5%
ふくし しえん う かる アパートで福祉の支援を受けながら、軽い 仕事をみつきたい	12.0%
わからない	8.3%
しゅうしょく 就職することはできないので何らかの福祉 (生活保護や施設入所等) を利用して生活したい	7.6%

【困ったときに相談できる相手】

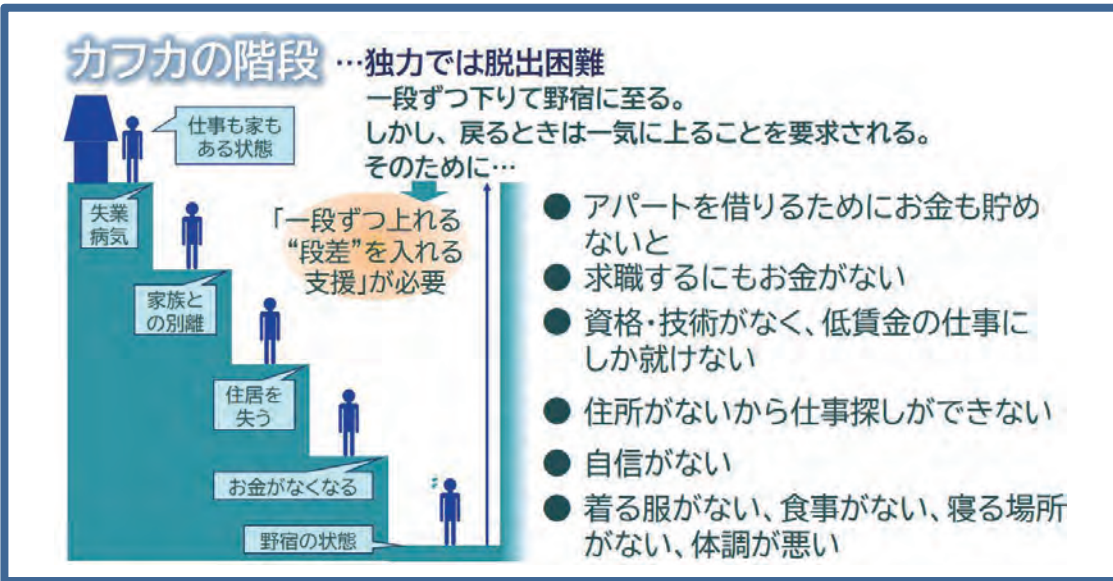
こま 困ったときに相談する相手がいる割合	ろじょうせいかつまえ 路上生活前	げんざい 現在
あいて 相手がいる	51.2%	37.8%
あいて 相手がない	48.8%	62.2%

【困ったときに助けてくれる相手】

こま 困ったときに助けてくれる相手がいる割合	ろじょうせいかつまえ 路上生活前	げんざい 現在
あいて 相手がいる	48.5%	37.2%
あいて 相手がない	51.5%	62.9%

「ホームレスの実態に関する全国調査(生活実態調査)の結果(令和3年)」(厚生労働省)(<https://www.mhlw.go.jp/content/12003000/000932240.pdf>)、
「ホームレスの実態に関する全国調査(概数調査)結果(令和7年)」(厚生労働省)(<https://www.mhlw.go.jp/content/12003000/001477787.pdf>)をもとに作成

【カフカの階段（提示用）】（出典：横浜市教育委員会教職員研修資料）



【「カフカの階段」とは】

生田武志氏が「野宿者が増えるのはなぜか」の説明をするために、作家フランツ・カフカ『父への手紙』の一部を引用し、命名した考え方。

野宿になるときは、だれでもある日いきなりなのではなくて、「段階」を1段ずつ落ちてだんだんと野宿になる。そして、そこからもとの「仕事をして家もある状態」に戻ろうとすると、4段分の階段が図のように1枚の「壁」になっているので、上がることも取りつくこともできない、ということ。

もといた場所に戻ろうとしても、今度はいろいろな条件を一気にクリアしないといけないので、なかなか上がることができない。その結果、野宿している人がどんどん増える。

【椅子取りゲーム（提示用）】（出典：横浜市教育委員会教職員研修資料）

いすとりゲーム

いすの数が人数より少ない限り、どう努力しても座れない人は出てしまう。すべての人ががんばっても、必ず座れない人はいる。
「いす＝仕事」仕事がなくなれば収入もなくなり、ホームレスになる可能性は高くなる。

【屋外生活者襲撃事件】※教師が読み聞かせる

1982年暮れ頃から1983年2月にかけて、横浜市内の公園などの屋外で生活していた人たちが次々と襲われ、3人が死亡、13人が重軽傷を負う事件が発生しました。2月11日、犯人として市内の中学生5人を含む14歳～16歳の少年10人が逮捕されました。

少年たちは逮捕されたとき、「こんなことで逮捕されるの?」「襲撃すると胸がスカッとした」「おもしろかった」などと語っていたとのこと。また、少年達は、この事件を起こした動機は全くの「遊び」であるとわかりました。少年たちは襲った相手が死亡したことを知っていましたが、罪の意識はなく、「屋外生活者は抵抗しない」との理由だけで、「おもしろ半分」に襲っていたということでした。